

国立病院機構熊本医療センター

No.166



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

熊本医療センターDMAT隊 宮城県被災者救援へ挺身しました

平成23年3月11日 午後2時46分に発生した東日本大震災で、宮城県と福島県の両県からの派遣要請を受け、当院のDMAT隊は11日午後8時に宮城県に向けて出発し、4日間の任務を終了し無事帰還しました。

厚生労働省医政局DMAT事務局は、全国全国の災害医療援助チーム（Disaster Medical Assistance Team：DMAT）に向け11日午後3時51分に下した出動待機指令に続き、九州のDMATに対し12日午前4時10分に福岡空港集合をかけ、自衛隊機によるDMAT搬送を行いました。当院のDMAT隊（原田正公隊長、北川貴章、山田晃七郎、秦幸一、西本辰徳）は、すでに前夜の10時に福岡空港入りしており、午前6時の1番機で中継となる茨城県の航空自衛隊百里基地に向けて飛び立ちました。その後、被災地宮城県の陸上自衛

隊震目駐屯地に移送され、被災地で対応困難な重症患者を被災地域外に搬送するための臨時医療施設（Staging Care Unit：SCU）の支援を行いました。

また、高橋毅統括DMATは厚生労働省医政局DMAT事務局の指令により福岡空港に残り、九州各地から参集したDMAT隊合計24隊119名を自衛隊輸送機3機で送り出し、さらに広域医療搬送患者受入に必要なSCUを、追加招集された7隊のDMAT隊とともに航空自衛隊春日基地内に設営しました。

国立病院機構熊本医療センター 管理課



自衛隊輸送機に乗り込む九州DMAT隊



池井院長へ帰還挨拶

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



「Time flies like an arrow?」

医療法人 博済会
島崎井上クリニック
理事長 井上 博之



「開業する決心はつきましたか?」「後悔はありませんか?」と問われた、故福田富士先生から後を継いでその言葉の意味も解らず何の準備もないまま、開業したのが平成10年12月でした。40代最後の年でした。直前の11月末迄、勤務医をしていました。そ

れ以来経営する事の厳しさを一日一日実感しながら50代はあっという間に過ぎ去り3年前に還暦を迎え、いつの間にか13年の月日が流れていました。まさに光陰矢の如しとは、この事です。

そして、開業した当初から御世話になりっぱなしなのが、熊本医療センターです。時間外の、かん頓そ径ヘルニアやら90歳をとくに過ぎた女性の大腿骨頸部骨折やら、糖尿病ケトアシドーシスの患者さんやら数え上げたらきりがありません。救急センターの高橋先生を始め色々な診療科の先生方の御世話になりました。どんな時間帯でも快く引き受けて頂き感謝の言葉が見当たりません。

これといった趣味はないのですが、学生時代に準硬式野球を少しだけかじった経験もあってプロ野球観戦(特に巨人戦、巨人、大鵬、卵焼き世代なので…)がこれからの季節、楽しみの一つです。2年前には福岡ヤフドーム迄、交流戦を観に行きました。球場の生の雰囲気の中でたて続けに飲んだ生ビールの味の美味しかった事(おそらく、10杯以上15杯未満正確な数は不明)

今年は、新幹線も開通するし、チケットが手に入る様であれば、是非もう一度行ってみたいと考えています。すみません私事になりました。

今後とも熊本医療センターが益々充実され、我々開業医に勇気と安心を発信し続けて欲しいと願っています。但しあくまでも御健康に留意された上での話ですが…。

平成22年度第2回(通算第30回)開放型病院連絡会が開催されました

平成22年度第2回開放型病院連絡会は、登録医の先生方をはじめ看護師、MSW、事務の方なども含めて多数の皆様に参加していただき、2月26日(土曜)18時30分より当院2階の研修センターホールにて開催されました。

開始に当たり、池井院長がご参加の皆様にお礼を述べた後、新病院での診療状況、ヘリポートの建設開始とそれに伴う駐車場の整備などをご報告致しました。続いて、開放型病院運営協議会委員の熊本市医師会会長福島敬祐先生よりご挨拶をいただきました。福島先生は、この開放型病院の意義を再確認され、益々開放型病院の先生方と本院の病診連携が進むことを希望される旨お話しいただきました。続く全体会議では、熊本市医師会理事の家村昭日朗先生と、河野副院長が進行を担当し、症例呈示として、宮成信友外科医長による“有鉤義歯の誤飲症例”について講演がありました。続いて、病院からの連絡事項として、末次剛輝企画課長から今後のヘリポート・保育園などの工事予定につ



塚原先生の講演の様子

いてご説明し、片渕茂地域医療連携室長から、a) 共同指導手順について b) 登録医の玄関表示についてご説明致しました。最後に、熊本市歯科医師会会長清村正弥先生より、当開放型病院と歯科医師会との関係のご挨拶をいただき、さらに口腔ケアの重要性と熊本市歯科医師会としての取り組みなどについてご紹介があり、全体会議をまとめていただきました。その後、特別講演に入り、厚生労働省大臣官房 厚生科学課長塚原太郎先生より、“厚生行政の最近の動向”の演題でご講演いただきました。非常に広範な内容にもかかわらず、非常にご丁寧にわかりやすいお話でした。ご参加いただきました皆様方にもきっとご満足いただけたご講演であったと思います。

前回に続き医師以外の方の参加者も多く、大変実りの多い連絡会になったと思われまふ。この会の成果として、病病・病診連携がさらに充実しますことを期待しております。(副院長 河野 文夫)



福島敬祐先生



清村正弥先生

病棟紹介〈2〉

ICU 病棟

ICUでは、瀧ICU室長以下、看護スタッフ27名が所属しております。ベッド数は6床でワンフロアですが、2床は個室とすることもできます。敗血症性ショック、重症熱傷、低酸素脳症、急性心筋梗塞など重症初療患者、集中治療を要する院内急変患者、食道癌などの侵襲が大きい大手術後患者の受け入れを主としています。様々な診療科の患者さんが入室されており、また、CHDF、脳低体温療法、IABPなど高度な医療機器を扱う治療を行うことも多いため、広い範囲での専門的な知識や技術が必要とされます。クリティカルな状態の患者および危機的状況の家族に対する確実で安心安全な医療が提供できるように、他職種と連携をとりながら、知識・技術・態度の習得に努めています。さらに、VAP予防やせん妄予防についての研究も継続していきたいと思っております。

ICU看護師長 小宮 紀子



瀧ICU室長とICUのスタッフ



ICU病棟入口



スタッフステーション



病棟内にある2床の個室



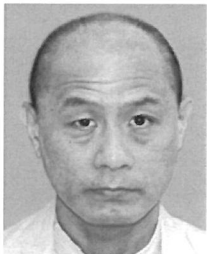
ワンフロアのICU病棟室内



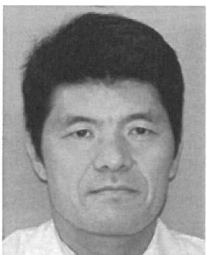
2011
診療科紹介 (35)
整形外科



統括診療部長
リハビリテーション科部長
地域医療研修センター主幹
野村 一俊
整形外科一般、膝関節外科、
股関節外科
日本整形外科学会専門医
日本リウマチ学会専門医
日本整形外科学会評議員
日本整形外科学会スポーツ医
日本医療マネジメント学会理事
日本整形外科学会理事
日本リウマチ学会評議員
西日本整形災害外科学会評議員
熊本大学医学部臨床教授



部長
リハビリテーション科医長
橋本 伸朗
整形外科一般、脊椎外科
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会脊椎脊髄病医
日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医
日本リウマチ学会専門医
日本リハビリテーション学会臨床認定医



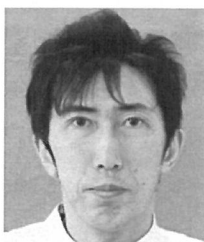
医長
福元 哲也
整形外科一般、膝関節外科、
股関節外科、外傷外科
日本整形外科学会専門医



医長
前田 智
整形外科一般、肩関節外科、
股関節外科、外傷外科
日本整形外科学会専門医



医師
中馬 東彦
整形外科一般、関節外科
外傷外科
日本整形外科学会専門医



医師
松下 任彦
整形外科一般
日本整形外科学会専門医



医師
田上 裕教
整形外科一般
日本整形外科学会

頭置換術が109例でほぼ、前年と同数でした。平成21年度の整形外科外来患者数は2,439名、入院患者数は1,009名で、平均在院日数は14.1日でした。

研究実績

QOL向上のための人工関節置換術、脊椎手術を中心とした低侵襲手術の臨床研究を続けています。これらの研究は、単に術式・材料に留まらず、総合的な医療の質向上のためのクリティカルパスと結びつけた研究としても発展しつつあります。現在、国立病院機構の政策医療ネットワーク骨・運動器共同研究として、大腿骨近位部骨折の予防、臨床研究に参加しています。また、厚生労働科学研究では、主な医療行為に対するクリティカルパスの臨床評価指標及び経営管理指標を用いた評価方法の開発と医療機関経営に与える影響に関する研究に参加しています。共同研究では、胸腰椎、椎体骨折に対する後方矯正術に参加しています。

今後の目標・展望

急性期病院の整形外科として、手術療法の更なる成績向上と低侵襲化を目指すと共に、地域連携クリティカルパスを充実し、術後リハビリテーション担当施設との連携医療の質向上を図っていきます。

診療内容と特色

近年、医療機関の機能分化が進み、医療連携なくして医療は行えなくなってきました。急性期医療を担う当院整形外科では、手術的治療が中心となっています。従って、術後リハビリテーションを要する多くの症例は、リハビリテーション施設へ転院治療をお願いしています。医療の標準化・質の向上を目指して53種類のクリティカルパスを作成し、現在、入院症例の90%以上に使用しています。地域連携クリティカルパスを連携施設と作成・活用し連携医療の質向上に努めています。

診療実績

平成21年度の整形外科手術件数1,046件の内訳をみると、疾患別では、骨折に対する骨接合術が半数以上を占めていますが、脊椎手術が172例、人工股関節置換術が35例、人工膝関節置換術が50例、大腿骨人工骨

最近のトピックス

新たな抗凝固薬の登場



神経内科医長

田北 智裕

このたび、2011年3月より、非弁膜症心房細動症例における脳梗塞予防としてダビガトランが日本でも承認されました。海外に目を向けましても、米国、カナダに次いで3番目という、異例の早さでの承認です。長年、心房細動症例における脳梗塞の予防においては、ワルファリンの独壇場でした。

ワルファリンは、一定期間毎の血液モニタリングを必要とし、食物や併用する薬物の影響も考慮しなければなりません。このように患者や医療従事者にとって非常に扱いづらい薬ですが、それでもその効果において、長い間とって代わるような薬が出現することなく、経口抗凝固薬の主役でした。

そんな中で、満を持して登場したのが、このダビガトランです。

ダビガトランは、世界44カ国で行われたRE-LY試験（無作為割付オープンラベル比較試験）の中で、特に150mg×2回/日群において、その効果と安全性においてワルファリンを凌ぐ結果を出しました。

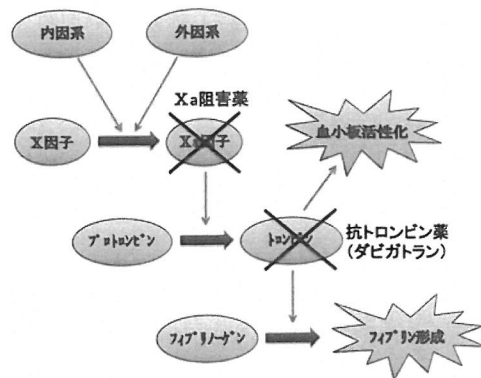
ダビガトランとワルファリンの一番の違いは、その作用機序にあります。ワルファリンが肝臓で合成されるビタミンK依存性の凝固因子の合成を阻害すること

で、間接的に抗凝固作用を発揮するのに対して、ダビガトランは凝固因子であるトロンビンを直接かつ特異的に阻害し、肝代謝酵素の遺伝子制御を受けません。このため、安定した予測可能な薬物動態を得ることができます。つまり、食物や薬物の相互作用もほとんど気にしないでよく、定期的な採血も必要としません。

以上より、ダビガトランは効果・安全性のみならず、内服管理の面からもワルファリンより使いやすい薬といえます。ただし、①半減期が短い（飲み忘れなどがあるとすぐ薬効が切れる）、②腎機能低下例（ $CCr < 30$ ）には使用できない、③脱カプセルできない、④内服例におけるtPA静注による血栓溶解療法の適応をどうすべきかの結論が出ていない、等の問題点もあり、その適応については留意すべき点もあります。

さらには、近い将来、凝固カスケードにおいてトロンビンより更に上流にあるXa因子に対する阻害薬も新たに承認される見通しです。

ワルファリン一辺倒であった抗凝固療法ですが、これらの新しい薬の出現によって治療の選択肢が増え、どのように使い分けていくかが、今後臨床において重要になってくることが予想されます。



血液凝固カスケードの概略（単純化したもの）

国際医療協力

AIDSの予防及び対策コース終了

JICA (Japan International Cooperation Agency) 関連の研修コースの中で集団研修 AIDSの予防及び対策のコースリーダーを務めて3年目を迎えることができました。色々な国からの医療関係者と接する機会の多く、それぞれの国の事情を汲み取りながら、現在世界が抱える問題を解決していこうという企画です。今回はボリビア、ブラジル、ジャマイカ、モルドバ、モロッコ、ミャンマー、ネパール、ウズベキスタンの計8カ国から12名が参加しました。平成23年2月21日に来日した参加者は約1週間の日本研修をJICA九州（北九州市）で受けた後、25日に来熊して当院教育研修棟での生活を始めました。

当院における研修初日（2月28日）には、午前中は県庁を表敬訪問し、午後からは池井院長、河野副院長を表敬訪問した後、オリエンテーションと当院見学を



行いました。翌3月1日は各国の紹介と今回の研修参加の目的や動機についての発表会です。質疑応答により様々な問題が浮き彫りとなりました。そして夕方は気分を変えて、日本現代和装研究会の皆様に着付けと茶道の御指導していただきました。日本文化を知ってもらうのも大事な国際交流の一環です。

3月2日からは日本、いや世界でも有名なAIDS/HIV臨床家・研究者をお招きし、あるいは東京大学や京都大学、日本赤十字九州血液センターを訪問して、講義と実習による研修を積んでいきました。最後に3月16日と17日のワークショップ、そして18日のアクションプラン発表会での今後の計画発表をまとめて、当研修は修了となりましたが、十分に成長した参加者達は、4週間の日本滞在の後3月20日に帰国の途につき、これからは自国でのAIDS/HIV対策の専門家としての活躍が期待されます。

（血液内科医長 武本 重毅）



**いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか**

シリーズ52回

「日本に特有な高齢者悪性疾患、成人T細胞白血病の病態解析」

臨床研究部 ホルンクナ ラティオン



タイ国コンケン大学看護修士課程で高齢者ケアの研究をおこなった経験から、日本での少子高齢化とこれに対する医療と行政の取り組みに興味をもちます。現在タイ国では高齢化が急速に進行しており、その対応が急務なのです。日本で悪性新生物が死因の第一位になったように、タイ国でも悪性リンパ腫などが増加傾向にあります。

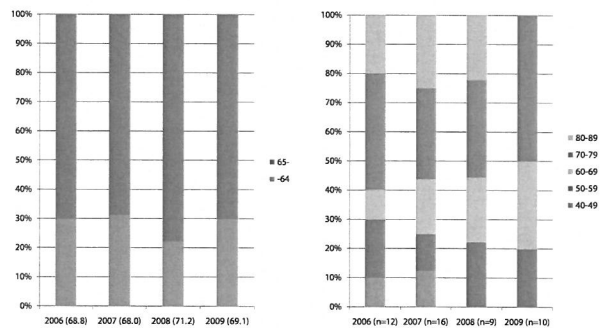
私はコンケン病院職員として、医学博士課程の大学院への進学を許可されました。そして選んだのは、コンケン病院が姉妹協定を結んだ国立病院機構熊本医療センターのある熊本の地でした。熊本県はコンケン県とはほぼ同じ人口であり、高齢化対策にも力を入れていると聞いています。

高齢者の悪性腫瘍とその治療を理解する上で、熊本で基礎・臨床研究が盛んであった成人T細胞白血病(ATL)に注目しました。ATLが発見された1977年ごろというのは、それまで主要先進国中最低だった日本の平均寿命が、他の国々を全て抜き去り世界一になったところと一致します。またJICA関連の研修コースで色々な国からの医療関係者と接する機会が多い武本先生によれば、HTLV-1感染地域であってもATLは問題視されていないといひます。その理由として国民の大半はATLの発症よりも前に寿命を迎えてしまうからだと思います。では、ATLの発症年齢は何歳くらいなのでしょう。

文献では平均して60歳くらいと言われていますが、実際に当院を受診し新たにATLと診断された患者年齢を調べてみると65歳以上の高齢者が70%を占めており、年々60歳以上の割合が増えていました(図参照)。このようにATLは高齢化社会において対応を必要とする疾患の一つなのです。

日本におけるATL死亡者数は毎年1,000名を超え、依然として九州に多い血液腫瘍です。そこでいかにしてこの高齢者患者を治療するかが問題です。我々は慢性型から急性転化を起こす症例に注目しました。そして急性転化に伴いsCD30が他のマーカー(sIL-2R、LDH)よりも早期に上昇すること、治療中の再発(再燃)でも同様の所見がみられ治療レジメン変更により低下すること、さらに治療が奏功すれば正常化することを見出しました。血清検査はその検査方法や検体保存が比較的容易であるため、タイ国など世界各国との共同研究が可能です。我々は高齢者リンパ腫の病態把握のためにこの可溶性タンパク測定を活用し、診断や治療に応用するための研究を進めています。

**当院を受診したATL新患年齢
(2006-2009)**



地域医療連携係長交代のご挨拶

— 退任のご挨拶 —

4月1日付で国立病院機構九州医療センター副看護部長を命ぜられ、国立病院機構熊本医療センターを去ることになりました。

平成21年4月に当院に初めての退院調整看護師として地域医療連携係長を拝命し2年間が経ちました。在籍中は連携医療機関の皆様方には、多大なるご支援とご協力を頂きありがとうございました。

看護部の目標である「多職種で協働しながらスムーズな退院調整を行う」を目標に、入院時から、患者及び家族が納得した上で急性期の治療が終了した後の療養の場を選択できるよう支援し、さらに連携医療機関の皆様方のご協力を頂きながら患者様のQOLの向上を目指した連携を心掛けて参りました。院内では、入院時のスクリーニングが定着し退院支援が必要な患者様に対し医師を交えたカンファレンスが実施されるようになってきています。まだ、退院支援システム構築の途上ですが、後任者が引き継いでいくことと思ひます。連携医療機関の皆様方には、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

国立病院機構九州医療センター 副看護部長
黒田 かえで

— 新任のご挨拶 —

4月1日付けで地域医療連携係長を拝命いたしました田中富美子です。

地域医療連携は以前からその重要性が話題になっておりますが、私が地域連携と深く関わったのは、整形外科病棟師長在職中に「大腿骨頸部骨折シームレスケア研究会」に参加し、地域連携クリティカルパスの作成、見直しに、連携先のスタッフの皆様とともに取り組んだ時でした。その際これからの社会のなかで地域連携がいかに重要になってくるかを学ばせていただくとともに、大変魅力を感じました。

このたび地域医療連携室のスタッフの一員となるに当たり、地域の中核病院として、かかりつけ医である地域の開業医の先生方、福祉事業関連の担当者の皆様と連携を図り、患者様やご家族が安心して医療、福祉を受けられるよう、最大限の努力をいたす所存でございますので、よろしくご指導のほどお願ひいたします。

国立病院機構熊本医療センター 地域医療連携係長
田中 富美子

退任のご挨拶



心臓血管外科 医長
毛井 純一

昭和54年、熊大卒業時に東京女子医科大学（当時、和田寿郎教授）にて修練を始め、20年目、当時の熊大心臓血管外科、北村信夫教授より薦められ、平成10年7月1日、国立熊本病院の時代に心臓血管外科に赴任しました。

女子医大に在籍していたときは、心臓外科4、呼吸器外科6の割合で非常に充実した動物実験や臨床症例

を経験しましたが、多くの苦労は知らない時代でした。

しかし、当院に就任後は、翌年、妻と出会い、世帯を持ち、その翌年、長女が誕生、両親は数回ずつ当院に入院し、多くの職員の手厚い看護を受け、天寿を全うしました。昨年は待望の長男も誕生しました。すでに思い出深い旧建物はなくなりましたが、この病院では、女子医大時代には気づきもしなかった私の人生でもっとも大事なものを蓄積させていただきました。

大学医局人事や地域医療への期待から、八代市の熊本労災病院心臓血管外科に異動しますが、公私ともに充実したこの病院で充電できた力をもってがんばることを決意しています。

本当にありがとうございました。



外科 医長
おお どう まさ はる
大堂 雅 晴

このたび熊本医療センターでの4年5ヶ月勤務を修了し退職させていただくこととなりました。思い返せば、この期間は、電子カルテ、オーダリングシステムの導入、新病院竣工、新病院新築、移転とまさに熊本医療センターの激動の期間に勤務させていただきました。私の医師としての人生の中でも印象に残るものとなりました。熊本出身ではあるものの、当地での勤務

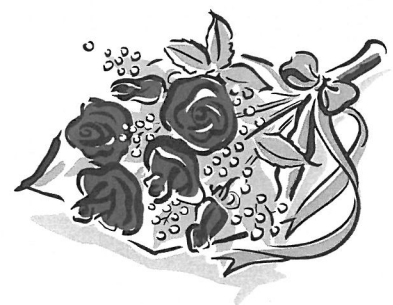
が初めてであった私にとって、就業当初は右も左もわからない状況からのスタートであり、色々ご迷惑をおかけしたこともあると思います。当院赴任にあたり、施設目標として、肝胆膵外科学会高度技能医手練施設へのステップアップ、個人としては、超音波専門医の育成、国際学会でのオーラル発表を目標としておりました。学会発表に関しては、稚拙ながら達成できましたが、大きな命題の2項目に関しては到達できず、力のなさを感じております。そのような私に対し在任中にご指導、ご鞭撻をいただきました諸先生方へこの場を借りましてお礼を申し上げさせていただきます。ありがとうございました。



皮膚科 医長
あさ お か え
浅尾 香 恵

3月末で国立病院機構熊本医療センターを退職となりました。当院の勤務も初めて、医長という立場も初めてであったため、慣れないことばかりで、院内各科の先生方や地域の先生方に色々ご迷惑をおかけすることが多くあったと思います。2年間という短い間でしたが、皆様にご指導頂き、無事に勤務することができました。この場を借りまして厚く御礼申し上げます。当院の特徴として、急患、全身状態不良、合併症多数の患者様が多く、非常に多彩な症例に出会い、貴重な経験となりました。特に褥瘡に関しては、皮膚科的処

置・治療の他にも予防対策、栄養管理、退院後も継続治療が可能な体制作りなどが欠かせず、院内外の医師だけでなく多くのスタッフとの連携、相互の連絡を密にする必要があることを痛感しました。難しい課題ではありますが、今後の診療に生かすことができればと思います。ありがとうございました。



新任職員紹介



皮膚科 医長
まきの こうし
牧野 公治

このたび4月1日付で皮膚科医長を拝命致しました
牧野公治と申します。

2001年に熊本大学を卒業し同附属病院での研修後、
当時国立熊本病院であった本院に約1年半臨床研修医

として在籍しておりました。その後熊本労災病院、熊
本大学大学院と附属病院を経て8年ぶりに本院に戻っ
て参りました。

皮膚の病気は患者様のQOLを強く損ねることが多々
あり、そして内臓の鏡として身体の異常をいち早く知
らしめることもしばしばです。熊本の中心的医療機関
たる熊本医療センターの皮膚科主任として、皮膚の問
題改善を通じて皆様のお役に立てればと思っております。
どうぞ宜しくお願い申し上げます。



消化器内科 医長
むらお てつや
村尾 哲哉

平成23年4月より消化器科で勤務することになりま
した村尾哲哉と申します。

熊本大学を平成11年に卒業し、熊本大学病院、熊本
地域医療センターで研修を終えた後、人吉総合病院に

2年間勤務、その後熊本大学病院で8年を過ぎまし
た。大学病院では主に消化管疾患、特にGERDなどの
症状の訴えが中心となる方を多く担当いたしました。

熊本医療センターでの勤務は初めてですが、救急搬
送が多いと聞いております。忙しいであろう毎日が予
想されますが、他科の先生とも連携をさせていただい
て、より良いチーム医療が目指せるのではないかと楽
しみでもあります。今までの経験を生かして勤務に励
みたいと思いますので宜しくお願いします。



脳神経外科
あまだつ としひろ
天達 俊博

平成23年4月より脳神経外科で勤務することになり
ました天達俊博と申します。

平成18年熊本大学医学部を卒業後、済生会熊本病院

で2年間の初期研修を終え、平成20年より熊本大学脳
神経外科に入局しました。大学病院で1年勤務後、鹿
児島県鹿屋市の徳田脳神経外科病院で2年間勤務いた
しました。

今春より当センターで勉強させていただくことにな
りましたが、豊富な症例を経験させていただくことに
より自分の技術を磨き、幅広く深い知識が持てるよう
に努めていきたいと思っております。何卒ご指導ご鞭撻のほ
どよろしく願いいたします。



麻酔科
まつかわ ひてかず
松川 豪策

平成23年4月より麻酔科で勤務することになりまし
た松川豪策と申します。

平成19年に熊本大学医学部を卒業し、熊本大学医学
部附属病院および済生会熊本病院で初期研修を終了し
たのち、平成21年に熊本大学麻酔科に入局しました。

その後は熊大病院および熊本赤十字病院で一年間ずつ
勤務しました。

前院では緊急手術が大変多く、イレウス、帝王切開、
外傷などを始め様々な緊急症例を経験できました。当
院も地域の中核病院として緊急手術を含む多数の麻酔
管理症例があるので、今までの経験を生かしつつ、ま
た、さらに技術・知識を深められるよう努めていき
たいと思っております。

皆様には御迷惑をおかけすることが多々あると思
いますが、どうぞよろしく願いいたします。

■ 研修のご案内 ■

第147回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成23年4月18日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例検討「最近経験したCKDの2症例」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医長 富田 正郎
4. ミニレクチャー「インクレチンの最近の話題」 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科医長 豊永 哲至

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第67回 特別講演 (無料)

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成23年4月20日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長:国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫

「神経・筋疾患との40年を振り返りながら」 国立病院機構南九州病院 院長 福永 秀敏 先生

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 FAX 096-325-2519

第116回 三木会 (無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成23年4月21日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「睡眠障害を起こすほどの両下肢の疼痛を訴えた血糖コントロール不良の糖尿病神経障害を伴う2型糖尿病の1例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
福島亜矢子、川原一洋、島川明子、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗
2. 「糖尿病合併高血圧症例におけるテルミサルタンの血管内皮機能改善効果」
土井内科胃腸科医院 糖尿病・内分泌内科 土井 賢

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表)内線5705

第11回 症状・疾患別シリーズ (会員制)

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成23年4月23日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

演題:「心肺停止-心肺蘇生後の管理(体温、血糖、動脈血炭酸ガスをどう管理するか)-」

1. 救急蘇生法-ガイドライン2010- 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明
2. 蘇生後、低体温療法の理論 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・集中治療室長 瀧 賢一郎
3. 蘇生後の管理の方法と現状 国立病院機構熊本医療センター救急科医長 原田 正公

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

● 耳鼻咽喉科外来初診予約のお願い ●

先生方には平素より患者様のご紹介で大変お世話になっております。

当科では火・金曜日に外来診療を行っておりますが、現在、耳鼻咽喉科の医師が1名で診療させて頂いておりますので、患者様に長時間お待ち頂く等のご不便をさけるために、事前にFAXでのご予約をお願いしております。

FAXでのご予約は月から金(午前8時15分から午後5時15分)です。当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者が予約を取りましてFAXにて返信致します。

FAXの紹介用紙は、電話(代表096-353-6501 内線2360)またはFAX(医事096-323-7601)でご請求頂きますと、直ちにFAXにてお送り致します。また、後ほど改めてFAX紹介用紙を郵送致します。

ホームページからもダウンロード出来ます。

国立病院機構熊本医療センターホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

お忙しい中、大変お手数ですが、ご紹介の際には前もってFAXでのご予約にご協力頂きますようお願い申し上げます。
国立病院機構熊本医療センター 耳鼻咽喉科

予約専用FAX 096-323-7601

2011年 研修日程表 4月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

4月	研修センターホール	研修室	その他
1日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
4日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
5日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
6日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
7日(木)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
8日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
11日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
12日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~17:00 外科術前症例検討会 C1 17:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
13日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
14日(木)		18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
15日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
16日(土)	13:30~17:00 第81回 ナースのための救急蘇生法講座 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 他		
18日(月)	19:00~20:30 第147回 月曜会(内科症例検討会) 【日本医師会生涯教育講座 単位認定】		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
19日(火)		17:30~20:00 熊本地区核医学技術懇話会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
20日(水)	19:00~20:30 第67回 特別講演 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 座長 国立病院機構熊本医療センター 副院長 河野 文夫 「神経・筋疾患との40年を振り返りながら」 国立病院機構南九州病院 院長 福永 秀敏		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
21日(木)		19:00~20:45 第116回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) 【日本医師会生涯教育講座 単位認定】 【日本糖尿病学会指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定】	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
22日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
23日(土)	15:00~17:30 第11回 症状・疾患別シリーズ 【日本医師会生涯教育講座2.5単位認定】 座長 熊本県医師会理事 西 芳徳 「心肺停止-心肺蘇生後の管理 (体温、血糖、動脈血炭酸ガスをどう管理するか)-」 1. 救急蘇生法 -ガイドライン2010- 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 2. 蘇生後、低体温療法理論 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・集中治療室長 瀧 賢一郎 3. 蘇生後の管理の方法と現状 国立病院機構熊本医療センター救急科医長 原田 正公		
25日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
26日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
27日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
28日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
30日(土)	13:30~16:00 看護卒後研修 「患者と医療者のコミュニケーション」 NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 辻本 好子/山口 育子		

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)